

主要なKPIと活動内容

マテリアリティ	アプローチ	KPI	目標	2024年の主要な活動	2024年実績 (2023年との比較)	2025年計画 (目標への進捗)
心身の健康	→ 誰もが一生涯、運動・スポーツに関わり、心と身体が健康で居続けられる世界の実現を目指す。	→ OneASICS会員数	→ 2026年までに 3,000万人	→ 「Move Her Mind Hub」、「Desk Break Experiment」、関連のキャンペーンといった、「Sound Mind, Sound Body」心身の健康の取組みを展開。 → Runkeeperやレース登録情報を一元管理し、より顧客の嗜好や行動にフィットしたコミュニケーションを可能に。	→ 1,764万人 ^{※1} (1,229万人) ^{※2} (2023年：945万人)	→ ASICS Foundationを設立し、社会貢献活動に取り組む → 顧客データ基盤を活用し、より顧客に寄り添ったコミュニケーションを行うことで、ブランドエンゲージメント向上を目指す。 → ランニングエコシステムを通じて一貫したランナーエクスペリエンスをもたらす、アシックスにしかできない独自のロイヤルティプログラムを提供する。
製品とサービスの品質	→ 製品・サービスの安全性、品質、機能性を追求し、人々の心身の健康向上に貢献する。	→ 製品中の制限化学物質の管理を継続。 → 2024年秋冬シーズン以降、あらゆる用途で有機フッ素化合物(PFAS)の意図的な使用を中止(規制のない地域での必要不可欠な用途は除く)。		→ PTFEを含む、あらゆる用途でPFASの使用を中止。	→ 2024年秋冬シーズン以降、あらゆる用途でPFASの意図的な使用を中止した(規制のない地域での必要不可欠な用途は除く)。 (2023年：PFASの意図的な使用を削減)	→ 規制のない地域でもPFASを含有する製品を削減する。 → 全世界で強化の続くPFAS規制への対応を継続する。
サプライチェーンの人権・透明性	→ サプライチェーンで働く人々の人権を尊重し、心身の健康を保つ。バリューチェーンの透明性とサステナビリティを向上する。	→ 一次生産委託先工場の比率(%)がアシックスの基準を上回る。	→ 100%	→ サプライヤー評価システムを最適化。 → サプライチェーンでの人権デュー・ディリジェンスプログラムを強化。 → データの分析および有効利用によって、リスクマネジメントを強化。	→ 97% (直近1年間に評価対象となった工場の数に基づく) (2023年：99%)	→ サプライチェーンのリスク低減とコンプライアンスを強化する。 → サプライヤーの自発的なリスクマネジメントを強化する。 → トレーサビリティプログラムを導入して、透明性を向上する。 → 関連するあらゆるシステムを統合することによって、データ収集を改善する。 → 業界のトレンドと規制要件に対して、絶えず機敏に対応する。
気候変動への対応	→ バリューチェーン全体でCO ₂ 排出量を削減し、運動・スポーツができる環境を守る。	→ 事業所およびサプライチェーンでのCO ₂ 排出量削減率(2015年比)	→ 2030年までに 63%	→ フットウェアの戦略的一次生産委託先工場の100%が具体的な再生エネルギー調達計画を策定。また、グリーン調達方針をアップデートし、フットウェアの戦略的一次生産委託先工場に対し、2030年までに再生可能エネルギーの調達率100%にコミットすることを求めた。 → 新たな材料調達方針を制定。	→ 43.1% (スコープ1およびスコープ2) 14.9% (スコープ3) (2023年：31.3% (スコープ1およびスコープ2) 21.6% (スコープ3))	→ サプライヤーと連携し、新たなグリーン調達方針と材料調達方針に基づいてCO ₂ 排出量を削減する。 → 製品のカーボンフットプリント表示を継続する。
		→ 事業所での再生可能エネルギーの使用率	→ 2030年までに 100%	→ 主要地域での使用率向上：欧州(80%以上)、オーストラリア(70%以上)、日本(30%以上)。米国の配送センターでは、ソーラーパネルの容量を1MWから2MWに拡大。	→ 36.8% (2023年：29.9%)	→ 排出量の多い施設に焦点を絞り、再生可能エネルギーの使用率を継続的に高める。 → 2030年までに100%という目標を達成するために、明確なロードマップを策定する。

※1 2024年度より、日本、米国、欧州、およびオーストラリアでの会員数に、中国、インド、などで展開するローカルプログラムの会員数を追加した数となっています。
また、アシックスプライバシー方針に基づき、2年間使用されていないアカウントは失効となり削除されています。

※2 2023年の第4四半期と同じ基準(主として、日本、米国、欧州、およびオーストラリアの会員数、削除前)。前年比もこの数字が基準となっています。

主要なKPIと活動内容

マテリアリティ	アプローチ	KPI	目標	2024年の主要な活動	2024年実績 (2023年との比較)	2025年計画 (目標への進捗)
循環型ビジネス	→ 使う資源を減らして長く使える製品を生産し、資源を循環させ、CO ₂ 排出量などの環境負荷を低減する。	→ シューズとウェアのポリエステル材の再生ポリエステル材比率	→ 2030年までに100%	→ 各カテゴリーへ再生ポリエステル材の使用を増やすための明確な方針の共有。	→ 50%以上 (2023年：40%以上)	→ 各カテゴリーと連携し、方針に沿って再生ポリエステル材の使用比率増加に取り組む。
		→ 回収プログラムを実施し、製品と材料の再利用またはリサイクルを実施している地域の数	→ 2030年までに3地域	→ 「NIMBUS MIRAI™」を発売し、パートナー企業とともに、グローバルで「NIMBUS MIRAI™」の回収を実施。	→ 4地域 (2023年：3地域)	→ 「NIMBUS MIRAI™」で得た学びを活かし、回収プログラムを拡大する。
ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン	→ 多様な人財が公平に活躍してイノベーションを加速する、エンゲージメントの高い組織を実現する。	→ 女性管理職比率	→ 2026年までに40%以上	→ すべての地域で、ジェンダー平等に結びつく、女性のキャリアアップを支援するためのアクションプランが作成されている。 → グローバルDE&Iステアリングコミットティが、各アクションプランの進捗状況をモニタリング。	→ 39.5% (2024年12月現在) (2023年：38.1%)	→ それぞれの地域で、進捗状況に基づいてアクションプランを継続的にレビューし、更新する。グローバルDE&Iステアリングコミットティが、全体的なプロセスのモニタリング、レビューを引き続き実施する。
		→ 従業員のエンゲージメントスコア	→ 2026年までに70	→ グローバルエンゲージメントサーベイを実施。「Sound Mind, Sound Body」を実現するべく、従業員の努力が報われる職場を作るためのアクションプランが作成された。	→ 73 (2023年：68)	→ フォローアップサーベイを実施し、各地域で進捗状況を確認し、サステナブルなエンゲージメントを実現するためのイニシアティブを継続的に実施できるようにする。
		→ 障がい者雇用比率（アシックス本社）	→ 2026年までに4%	→ 人財を確保するために、日本では障がいをもつ部下がいるマネジャーを対象としたワークショップを開催。 → 日本のすべての従業員が神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会を観戦。 → 人財採用のための広報活動を強化することにより、2名の新卒者と3名のキャリア採用者が入社（2名のパラアスリートを含む）	→ 3.1% (2023年：2.9%)	→ 障がいに関わらず社員が成長できる環境を構築するために、それぞれの地域で、意識醸成や教育を含めた、本事柄に焦点を当てたアクションプランを実施。
生物多様性と水の管理	→ 自然資本へのインパクトを最小限に抑え、持続可能性を向上する。	→ 2024年：目標設定無し	→ 2024年：KPI設定無し	→ LEAPを使ったリスク分析を開始。 → 「Run for Reforestation Challenge」を通じた、気候変動と生物多様性保全活動への消費者エンゲージメント。		→ 分析を完了し、2025年のレポートで結果を開示。